国語科（現代文Ｂ）学習指導案
岡山県立津山高等学校　普通科　３年　組（人文コース）
令和３年６月　日（　）　第　校時　　指導者

単元名	表現や展開に着目し、心情変化を正確に捉える。
学習材	『檸檬』梶井基次郎（第一学習社『現代文Ｂ』）
目標	○出来事をきっかけとした心情変化を正確に捉え、作品の内容への関心を深めようとしている。（関心・意欲・態度） ○出来事をきっかけとした登場人物の心情変化を、比喩表現やモチーフを根拠としながら正しく捉え、説明することができる。（読む能力） ○語句の意味や用法を的確に理解し、読解および自分の表現に役立てることができる。（知識・理解）
指導上の立場	○生徒観 小説教材としては『羅生門』、『城の崎にて』、『山月記』、『こころ』、『バグダッドの靴磨き』を学習してきている。小説に対しての関心は高く、登場人物の心情や言動の意図を読み取ろうとする姿勢は積極的であるが、自身の感覚や価値観に頼った読み取りになってしまうことが多い。また、ペア活動やグループ活動では積極的に意見交換をすることができているが、そこから個人の考えを深めていくという主体的な学習ができている生徒は多くない。 今回授業を行う３年　組は、人文コースの中でも、国語の成績に関して幅広い層の生徒が所属するクラスである。そのため、クラス内でも生徒間に理解力や思考力の差が見られ、段階的な発問や声かけが必要だと考えられる。 ○題材（単元）観 『檸檬』は、梶井基次郎の小説である。陰鬱としたものを抱えた主人公が、タイトルにもある「檸檬」との関わりによってどこか晴れやかな思いへと変化していく様が描かれている。特筆すべきは、主人公の心情を中心として、非常に詩的な表現によって作品世界が構築されている点である。このような文章においては、大まかな理解で満足してしまい、その読みが主観的、感覚的なものとなりかねない。 本作品の読解を通じて、文章構成から根拠を探し出す力を身につけられるようにしていく。 ○本教材で工夫する点や手立て 普段からペア活動を多く取り入れているが、ただの意見交換となり、個人の考えが深まっていると言えないことも多い。そこで本単元では、個人の考えの変化を授業プリントに記述する時間を適切に設け、主体的な学びを促す。また、ペア活動における話し合いが円滑に進んでいない様子などが見られた場合には、ヒントとなるような観点を示していく。

指導と評価の計画 全５時間	主な学習活動	具体的な評価規準（◇）と評価方法
	第一次　時代背景と時系列の確認　・・・２時間 第１時　キーワードをもとに時代背景を確認し、作品中における時系列を明らかにする。　・・・１時間 第２時　時系列に沿って、出来事とそれに伴う心情の変化を捉える。　・・・１時間	◇時代背景を正しく理解し、作品の内容への関心を深めようとしている。（関心・意欲・態度）（観察） ◇語句の意味や表現技法を的確に理解し、読解や表現に役立てることができる。（知識・理解）（授業プリントの記述）
	第二次　表現に着目した読解　・・・３時間 第１時　「書籍、学生、～亡霊のように私には見えるのだった。」について、比喩を正確に読み解く。　・・・１時間（本時） 第２時　「不審なことが、逆説的な本当であった。」について、檸檬と不吉な塊の関係性から読み解く。　・・・１時間 第３時　「くすぐったい気持ち」について、現実における行動についての記述と、想像の世界についての記述をもとにして読み解く。　・・・１時間	◇出来事をきっかけとした登場人物の心情変化を、比喩表現やモチーフを根拠としながら正しく捉え、説明することができる。（読む能力）（観察）（授業プリントの記述） ◇語句の意味や表現技法を的確に理解し、読解や表現に役立てることができる。（知識・理解）（授業プリントの記述）

本　時　案（第二次の第１時）	
目標	○豊かな表現を味わいながら、作品の内容への関心を深めようとしている。（関心・意欲・態度） ○比喩表現を正確に捉え、登場人物の心情や言動の意図を説明することができる。（読む能力）

学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
1　本時で扱う箇所について、作品中での時期を確認する。	○授業プリントは事前に配布し、本時で扱う問いについては記述をしてくるよう指示しておく。 ○前時で確認した時系列をもとに、該当箇所における「私」の状態と出来事を確認させる。 ○文学的文章において、心情の把握は重要な要素であるが、比喩表現等が使われていることも多く、慎重な読解が必要であることを確認させる。	
比喩表現に含まれる言葉それぞれを検討することにより、比喩表現を正確に捉える。		
2　「書籍、学生、～亡霊のように私には見えるのだった。」について、予習段階での記述を確認する。	○代表として数人の生徒に発表させる。 ○生徒予想として以下を挙げる。 ①　「私」には金がなく、豪華・贅沢なものは貧乏な現状を感じさせるものであったから。 ②　「私」は不吉な塊を抱えており、生活が蝕まれてしまっていたから。 ①については、書籍と勘定台については触れているものの、学生についての比喩たり得ないことに気付かせる。 ②については、抽象度が高く説明となっていないことに気付かせ、具体化を図らせる。 ※①及び②については、独立的なものではなく、関連させながら進めていく必要がある。	○豊かな表現を味わいながら、作品の内容への関心を深めようとしている。（関心・意欲・態度）〈観察〉
3　「私」の置かれている状況について具体化を図る。	○「不吉な塊」は焦燥であり、嫌悪であり、得体の知れないものである。つまり、単純に経済的なものからくるものに収束しうることはないことに気付かせる。 ○「学生」が比喩の対象にあることから、体調不良や経済的な問題に加えて、「私」が他の学生と比較してどのような状況にあるかを確認する。	○比喩表現を正確に捉え、登場人物の心情や言動の意図を説明することができる。（読む能力）(授業プリント）（観察)
4　再度記述を行い、比喩表現を正確に把握する。	○ここまでの考えをもとにして、再度記述を行い、近くの人と共有させる。 ○共有後、他の意見を踏まえて加筆・修正させる。	
5　本時のまとめをし、次回以降の予告をする。	○登場人物の心情を理解する上で比喩表現は一つの根拠たり得るが、決して主観的な判断によらず、一つ一つの言葉に丁寧に向き合う必要があることを確認する。 ○本時の気付きについて、振り返りシートに記入し提出する。 ○次時は新たな問いを扱うため、予習を指示する。	